

母子保健推進員を知っていますか？

現在、43人の方が母子保健推進員として市から委嘱され、市内各地域でさまざまな活動をしています。

市では、妊婦の方に母子健康手帳を交付するとき、担当地区の母子保健推進員を紹介しています。

平成23年度は、母子保健推進員が「こんにちは赤ちゃん訪問」として575件の訪問をしました。

◎母子保健推進員の主な活動

妊娠・出産・子育てをしている方が、一人で悩むことがないように、また、孤獨な子育てとなることのないように、母子保健推進員は皆さんの身近な相談相手として活動しています。

○訪問活動

・妊婦の方への訪問
・こんにちは赤ちゃん訪問（生後1〜4か月ごろの乳児が対象）

○「親と子のつどい」、「はじめましての会」

お母さんたちが知り合うきっかけ作りをしたり、子どもとの遊び方（手遊び）を教えたりしています。会場は保健センターや公民館などで、小学校区ごとに開催しています。

○早起き・早寝・朝ごはん
ペープサート（アンパンマン）を使って、広めていく活動をしています。

●問合せ先 保健センター
☎48・6000



▶はじめましての会／手遊び歌／ペープサート

国際交流員

ヨークさんの



文化の違いを再発見!

MORIYA 滞在記

今回の広報もりやに目を通したら、今年は守谷市の姉妹都市であるグリーリー市への青少年海外派遣があったことが分かるでしょう。参加者の多くが初めての海外で、アメリカに行ったことは皆にとつて印象的な経験になったと思います。実は、私にとつても青少年海外派遣の準備をしたことは勉強になりました。日本に慣れてきた私は、生徒たちにアメリカと日本の日常生活で違う習慣を教えてくださいと言われました。考えてみると私も「あっ！こういうことも違うんだ！」と気付かされました。

例えば、日本でげつぶが出ても、誰も構わないようですが、欧米では（特に食

事中）げつぶが出るとすぐ失礼にあたります。また、鼻をすすすることも失礼になるのです。この行動をとつてしまうと、周りにいる人がショックを受けたり、「鼻をかんでください」と言われたりします。それに対して日本では、鼻をかむと変な目で見られるでしょう。（私の場合、同僚に無視してもらいますが笑）食事中は特に失礼になります。欧米では大丈夫なんですけどね。食事中は、ただテーブルから顔を反らして、鼻をかめばいいのです。

また私は日本に来て、いろいろな人の前で講演してきました。そういう時にも欧米と日本との違いに気付きました。日本では授業中や講演中に話したり寝たりする人がいます。欧米ではそんなことをすると、先生を尊敬していないという意味になるので、授業中に寝たり話したりするのは絶対に許されません。

そのほかにも、良く知られている日本と欧米の違いが玄関の習慣です。日本の家には必ず玄関があり、入

る前に靴を脱ぎますが、欧米では靴を履いたままで入ります。この常識に間違いはないのですが、ドイツでは靴で家に入るのはダメという人も多いと思います。私の家族も友達も皆、家には靴で入りません。ただし、ドイツでは日本のように深い意味があるわけではなく、掃除が面倒だからそうしているのだと思います（笑）。パーティーや特別なイベントがあれば、「靴で入ってもいい」と言われることもたまにあるので。やはり家の中には常に土足禁止である日本と、ほとんどの場合土足で構わない欧米とでは、習慣が違うのです。

私は青少年海外派遣の準備を通して、欧米と日本では特に日常生活の異なる点が多いと再発見しました。また、私自身が日本にこんなにも染まったことにも少し驚きました。まだ理解できていない日本人の行動や習慣があるので、これからもっと勉強していきたいと思っています。

でも、すべて理解できる日は来るのかなあ？（笑）